

# トンボ舞う 石神井の水辺

しゃくじい  
石神井池

水辺  
しんぶん

かいぼりを軸とした水辺再生の取組をつたえる

No. 12  
2026年2月

登録番号7(4)

発行  
東京都  
東部公園緑地事務所



編集  
認定 NPO 法人 生態工房

石神井池では2021年に外来魚防除や水質改善を目的とした“かいぼり”を行ったのを契機に、アメリカザリガニ防除、湿地の管理などの水辺再生活動に取り組んでいます。こうした作業と並行して行っているモニタリング調査から、石神井池のトンボが増加していることがわかりました。



タイワンウチワヤンマ



キイトトンボ



アキアカネ

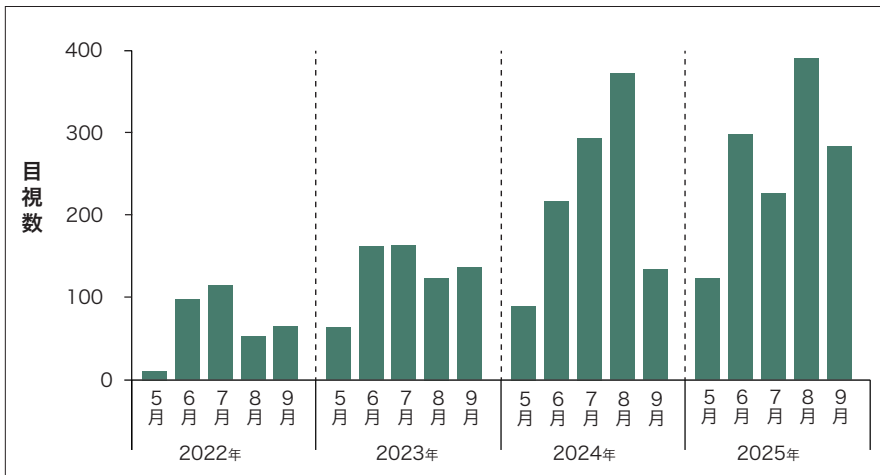


図1. 石神井池のトンボ全種の目視数の月別推移

## 水辺再生の取組とトンボ

石神井公園には広い水面や水草の茂み、水路といったさまざまなタイプの水辺環境があり、多種類のトンボが生息しています。しかし枯れ草の堆積による湿地の陸地化、水質悪化、池畔の樹林化、外来種による捕食などにより、生息状況が悪化している種もいます。

石神井池では2021年に行われたかいぼりをきっかけにさまざまな水辺再生の取組が進められています。こうした取組はトンボの生息にもプラスに働くと考えられます。

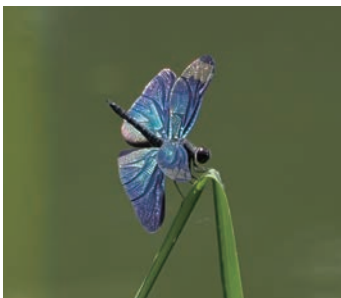
## 増えてきたトンボ

水辺再生の取組と合わせて実施しているモニタリングにより、石神井池のトンボの種数・個体数が増加傾向にあることがわかりました。種数については、個体数が少なく記録されにくかった種が、個体数が増加したことで目撃されやすくなったと考えられます。

生息が確認された27種のトンボのうち、特徴的な変化が見られた種について紹介します。

### ○チョウトンボ

ヒメガマやマコモなどの抽水植物が豊富な池に多く見られます。石神井池では2023年に目視数が増加しました。特に多かったのは石神井池下流部で、湿地とそれに隣接するヒメガマ帯で群舞している様子が観察されました。石神井池の上・中流部でも観察されています。



ヒメガマやマコモなどの抽水植物が豊富な池に多く見られます。石神井池では2023年に目視数が増加しました。特に多かったのは石神井池下流部で、湿地とそれに隣接するヒメガマ帯で群舞している様子が観察されました。石神井池の上・中流部でも観察されています。

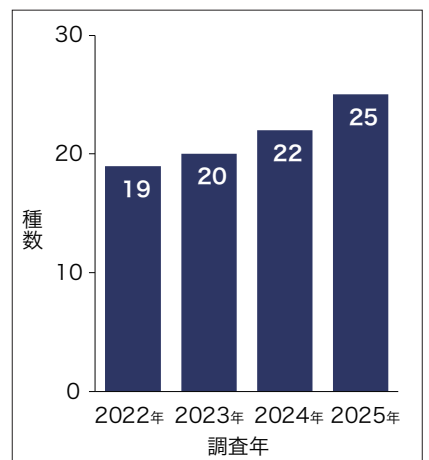


図2. 石神井池のトンボ確認種数の推移

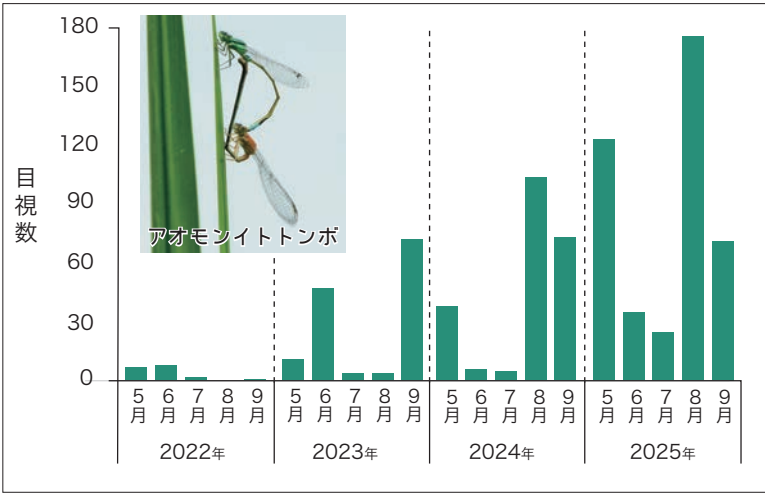


図3. 石神井池のイトトンボ科目視数の月別推移

○イトトンボの仲間  
 個体数が増えつつも増加したトンボは、アジアイトトンボ、アオモンイトトンボ、クロイトトンボを中心とするイトトンボ科です。イトトンボは水草が豊富な水辺を好みますが、繁茂し過ぎて水面が無くなると生息しにくくなります。



石神井池下流部の湿地

○マユタテアカネ  
 水草が多い明るい湿地に生息する赤トンボです。個体数の多い種ではありませんが、観察される頻度が増えました。池畔の草地や林で休息しているところがよく観察されています。



### トンボ増加の要因

石神井池でトンボが増加した要因は、外来魚の減少や水質改善が進んだことに加え、2021年から行っている池畔での湿地再生活動が関係していると推測されます。特に池の下流部では、外来植物であるキシヨウブが繁茂して陸地化していましたが、根茎や堆積物の掘り取りや草刈りを行い、さまざまなトンボに好適な湿地が回復しています。

トンボの個体数の増減には、水辺環境のほか、気象条件なども影響し、年による変動もあります。自然再生の取組の効果を把握するために、モニタリングを継続していくことが大切です。



### 大切にしよう！石神井公園のトンボ

たからもの  
 みんなの宝物をひとりじめして  
 とってしまうのはよくないよね！



わたしたちは  
 年々減っています

公園環境の保全の妨げとなる昆虫の捕獲や商業用の採集は禁止されています。

石神井公園サービスセンター



マルタンヤンマ

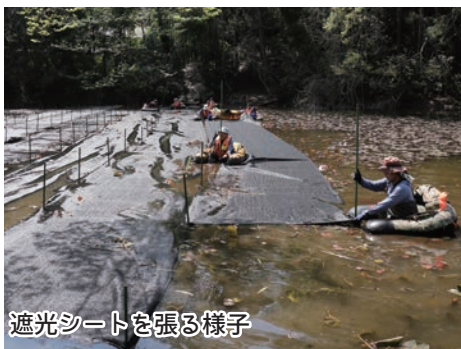
三宝寺池では夏期にヤンマ科のトンボの観察や撮影を楽しむ人が大勢いることから、ポスターを掲出して注意を呼び掛けています。

### ピックアップ! News

#### 外来スイレン防除で水面が回復!

三宝寺池の東部では園芸スイレンの生育範囲が拡大し、在来植物や水質への影響が顕著になっています。三宝寺のミツガシワやコウホネなどの水草は、沼沢植物群落として国の天然記念物に指定されていることから、現在園芸スイレンの防除が行われています。防除は、スイレンの葉に遮光シートを被せて枯死させる方法で、生育範囲が広い場合に適した手法です。2024年からは従来よりも大型のシートを使用し対策を効果的に進めました。

遮光シートは一年後に取り外し、隣の区画へ移設しています。シートを外した跡には広い水面が回復し、コナギなどの水草が見られるようになりました。ギンヤンマやチョウトンボを観察できる人気のスポットにもなっています。



遮光シートを張る様子



密生していた園芸スイレン



2025年5月の景観

コナギ